

あゆみ通信

VOL. 168

あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会) 会長 細川 克彦 広報 本持 喜康

第38回第2組同朋大会執行



去る3月11日(土)午後2時から、第2組仏事のスタート

となる第38回同朋大会が、難波別院同朋会館講堂で開催をされ、組内の

住職、寺族や門徒、推進員等66名が参加して厳粛に執行されました。くしくもこの日は2011年にあの東日本大震災、福島原発事故から12年に当たり、難波別院でも午後2時46分に忽那の鐘が鳴り響き被災された方を参加者が偲びました。

進行は松本隆信住職(西教寺)により、真宗宗歌斉唱のあと、池田英二郎副組長(宗恩寺)が導師となり「正信偈」同朋奉讃式を参加者全員で称えました。

続いて墨林浩組長(光照寺)より開会挨拶があり、釈徹宗先



生(相愛大学学長、浄土真宗本願寺派如来寺)から「柔らかな心」という講題でお話いただきました。釈先生は、親鸞聖人のご生涯、特にご臨終の様子から見えない世界に心をのぼすと言うことを考えたいと、板書を使いながら丁寧にお話いただきました。先生は、



心が柔らくなるとは何か。それは、仏教の教えに出遇って「自分の頑なな心を知らされることだ」と。そして、親鸞聖人は「浄土真宗の教えは『柔軟心』だと言われ、仏教の目指すとこ

ろであると話されました。(要旨別項)

法話終了後閉会式に入り、中嶋ひろみ門徒会会長(光照寺)から閉会挨拶があり、午後3時45分に終了しました。

第2組同朋法会スタート

第2組仏事の柱の一つ、同朋法会が始まります。コロナ感染対策をしながら、スタートです。ご参加ください。ただし、体調不安の方は、無理をされないでください。

4月同朋法会

日時 4月27日(木) 午後2時
会場 紹隆寺(天王寺区堀越町)
講師 大橋恵真先生

(18組遠慶寺住職)
参加費 500円



5月同朋法会 共に学ぶ正信偈

日時 5月23日(火) 午後2時
会場 専行寺(天王寺区堂ヶ芝)
講師 新田修巳先生

(4組 正業寺住職)
参加費 500円



コロナ感染対策が緩和されましたが、第2組では、当分の間、感染対策は継続して、予防は続けます。消毒や、マスク着用にはご協力ください。

第48回全推進員のつどい

日時 4月8日(土) 13:30
会場 難波別院 本堂
講師 玉光順正師

(元教学研究所有長、山陽教区光明寺前住職)

参加費 無料

大推協 公開講座

日時 6月6日(火) 14:00
会場 難波別院 同朋会館
講題 南無阿彌陀仏一人と生まれたことの意味をたずねていこう
講師 藤井真隆先生(即應寺)

親鸞のことば

心がひろがえされる不思議

えしん
「回心」とは、自力の心をひろがえしつるをいうなり
唯信鈔文意

親鸞が「回心」と言う宗教構図について述べている一節です。

回心とは、自分勝手に欲深、心を改めて(ひろがえして)仏道に入ることです。ここでもそのように述べられています。しかし浄土真宗における回心の特徴は、その背景に本願との出遇があることです。

阿彌陀さまの本願は「私の国である浄土に生まれようと思ひなさい。必ず救うから」と私たちに呼びかけています。その慈悲の声を聞き、浄土への歩みを始めることが回心です。じぶんのモノサシで人を裁いて衝突を起こし、人を傷つけ自分も傷つけ、都合の悪いことがあれば人や周りのせいにして自分を正当化する。そんな心が本願との出遇によって「ひろがえされる」のです。

もちろんひろがえされたからと言って、自力の心がなくなる訳ではありません。なくなったとしたら、この身のままで仏となるという即身成仏の世界です。浄土で仏になるのが親鸞の教えですから、自力の心はなくならなければ、その心の問題性を教えられると言うことでしょう。色眼鏡を掛けないけれども、色眼鏡をかけていることを知らされるのです。

(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より)

唯一無二

先達の一人、當麻秀真先生からいただく正行寺「寺報：今日のことば」にこんな言葉を見つけた。「正月の『正』の字は『一』と『止』の字で作られた文字で『一』に止まり、深く掘れ、そこで深く考えよ」と教えられています。

(大漢和辞書) ここで言われる『一』とは、私の存在の事実を言明した言葉であって、『唯一無二』の存在としての私であります。その事実を付け、どういふ仏からのうながし、あるいは『救命』であると言われています

今年の慶讃去要巡拝の本願で宗祖親鸞聖人にお遇いしてこの言葉を考えてみたい。(本) 3月20日誌。

**第38回第2組同朋大会
釈徹宗先生ご法話聞書
細川克彦(佛足寺)**



先生は「柔らかな心」という講題で、初めて「御伝鈔」に書かれている親鸞聖人のご臨終のところをご讃題として読み上げられてから、お話を始められました。

目頃、私たちの心は、ぎゅっと萎縮して固くなっており、自己中心的になっていたり、排他的になってしまっているが、先に逝った人に思いを馳せたりして、知性や情感をはぐくむことで、心を伸ばすことが大切であると話されました。



そのことはこれから生まれてくる人や未来のことにも思いを馳せる合わせ鏡になっていると。

心を伸ばすとは、心が柔らかくなることで、阿弥陀さまの48願の中の第33願に「触光柔軟の願」と言うのがある。教えに触れることで身や心が柔らかくなると。

身が柔らかくなるとは、例えば、つまずきそうになる人を見た時、思わず手を差し伸べようとしたりすることであるろうし、心が柔らかくなるとは、いかに頑なな心でいたかと知らされることであろうと。



後半のお話では、親鸞聖人の82歳から85歳の頃は近づく老いや病に悩まれ、また、火事にあったり、ご長男(善鸞)の縁を切らねばならなくなっ



たりされたが、そんな厳しい状況の中で、どのように心を伸ばされていたのであろうかと。

その頃には正像末和讃を作られたり、とても多くの著作をされたり、また、手紙をたくさん書いておられる。ことに正像末和讃には、辛さと信心の喜びがにじみ出ていると。またご生涯に何度も聖徳太子の夢告を受けられたり、夢をご覧になって、聖徳太子を観音菩薩の化身である信じられ、晩年、たくさんの聖徳太子奉讃和讃を作られ、その中で聖徳太子を父や母のようであると表現されたりしている。そのようにして、晩年の苦難の道筋を、心を伸ばして引き受けていかれたのではないかと話されました。

今、私がどう生きるか考える時、どんな言葉に出会い、どんな人に出会うかにかかっている。ただ昔を懐かしむだけでは仏道にならない。私たちの仏道は「六字のみ名を称えつつ」、世の生業、仕事や家庭生活、社会生活、近所の付き合い等に誠実に向き合っていくことが大切であると話されました。

**宗祖親鸞聖人御生誕
850年・立教開宗800
年慶讃法要始まる**

3月25日(土)から、真宗本廟で第1期慶讃法要がスタート。(4月8日まで)引き続き、第2期が4月15日(土)から29日まで行われます。阿弥陀堂と御影堂でそれぞれ法要が行われ。境内には慶讃テーマ館や、いこいの広場、子どもの広場他、門前にも市民緑地が作られ、いろいろなイベントが開催されます。

個人での参拝もできます。皆さんでお出かけください。

これからの第2組仏事

○第3回聞法会

日時 6月16日(金) 14:00
会場 宗恩寺(天王寺区四天王寺)
講師 宮部 渡先生
(15組 西稱寺)
参加費 500円

○第4回共に学ぶ正信偈

日時 7月22日(土) 14:00
会場 法山寺(阿倍野区天王寺町)
講師 新田修巳先生
(4組 正業寺)
参加費 500円

○第5回聞法会

日時 8月26日(土) 14:00
会場 光照寺(天王寺区上汐)
講師 廣瀬俊先生
参加費 500円

○第6回共に学ぶ正信偈

日時 9月27日(水) 14:00
講師 新田修巳先生
参加費 500円

大阪教区・大推協だより

**第49回近畿連区同朋の
会推進研修会のお誘い**

近畿連区は、大阪、長浜、京都、山陽、四国の5教区の推進員が年1回、住職、寺族、坊守方と共に1泊の研修会を行っています。今回は山陽教区の主催で下記の通り開催されます。他教区の推進員の皆さんと交流できる機会です。ご参加出来る方は、ご連絡ください。

期日 5月25日(木)~26日(金)
会場 国民宿舎 志んぐ荘

(兵庫県たつの市新宮町)
テーマ 同朋会運動の願い
一お念仏をいただくとは一
講師 真城義磨先生

(元大谷中・高校校長、愛媛県・真宗大谷派善照寺住職、真宗大谷学園専務理事)

参加費 17000円(1泊2食付き)
参加申込 4月21日までに大阪教区駐在教導(王来王家さん:06-6251-4720)にご連絡いただくか、大推教会長・細川克彦さんまでご連絡願います。

当日は真城先生の講義や班別座談会、勤行(夕事、晨朝)や懇親会などがあります。